

# 核の悲劇繰り返さない

## 県原水爆被害者の会



原爆死没者慰霊碑の前で、ビデオカメラに向かって被爆体験を証言する大和忠雄さん(左)＝5日午後、広島市の平和記念公園

## 広島で証言収録

県内の被爆者でつくる県原水爆被害者の会は、県内被爆者の証言を収めたDVDを初めて制作する。70回目の「原爆の日」を翌日に控えた5日、同会一行が広島入りし、広島市の原爆死没者慰霊碑の前などで撮影を行った。川本司郎会長(78)「静岡市清水区」は「被爆者が高齢化し、後世に証言を残すにはぎりぎりのタイミングだ」と、制作の意図を説明した。年内の完成を目指し、伝承活動に活用する。

「私は爆心地から3歳。自宅近くの公園に5歳の庚午(こゝろ)せい惨な遺体が山のよ北町7丁目被爆しまうに積まれ、焼かれるした」。原爆が投下された日と同じ晴天の爆から63年後の200下、大和忠雄さん(75)8年に原爆症とみられる胃がんを発症。胃のカメラの前で、静かに語り始めた。大和さんは当時5分の3を抽出した。これから本格的に始まる収録で原爆投下直後の街中の惨状や、何十年も後遺症が続く放射線の恐ろしさを伝え、二度と被爆者を生まない世界の実現に向けて後世に思いを託す。

証言DVD制作の背景には、被爆者の高齢化に対する危機感がある。広島と長崎の被爆者の平均年齢は80・13歳(3月末現在)と、初めて80歳を超えた。県原水爆被害者の会でも役員の体調不良などで、地域別に最大15カ所あった支部が静岡や浜松など4カ所に減少し、活動の縮小を余儀なくされている。

この日は、家族を捜すために広島市に来ていて被爆した伊藤陽子さん(73)「浜松市南区」と川本会長の証言の一部もビデオに収めた。この後、長崎市で平田和子さん(77)「富士市」ら長崎の被爆者4人の話も収録する。